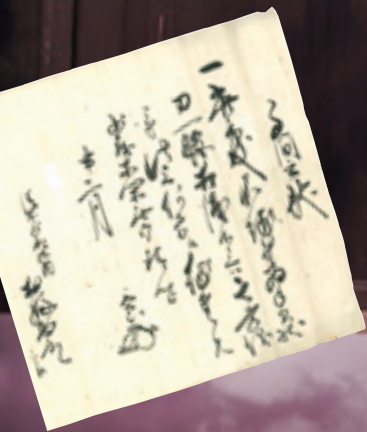
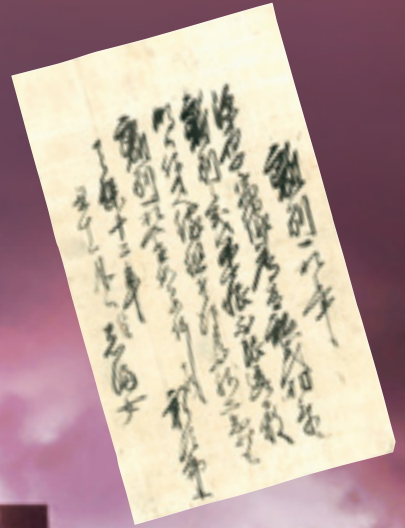
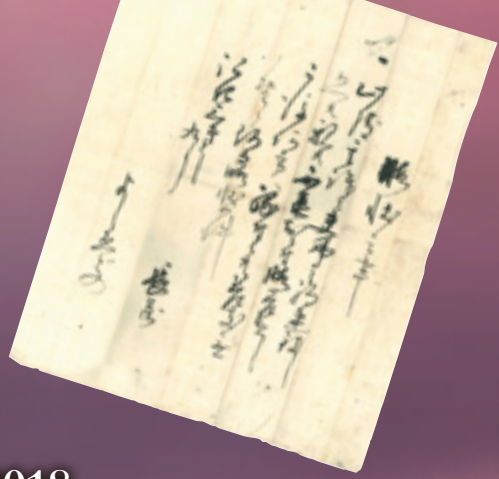


第32回「三くだり半」企画展

地域で異なった 三くだり半

2018
9/8^土~
10/28^日



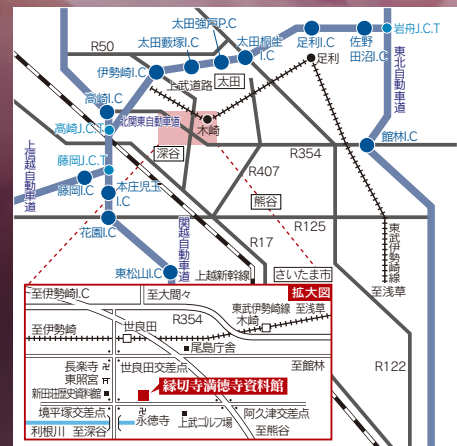
資料館
縁切寺

太田市立 縁切寺満徳寺資料館

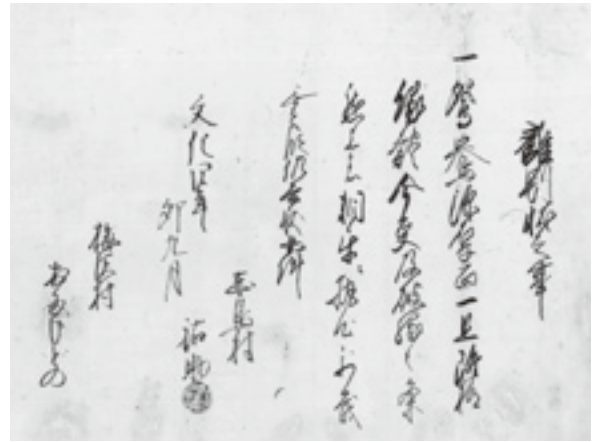
〒370-0425 群馬県太田市徳川町385-1
(東武伊勢崎線木崎駅・JR高崎線深谷駅下車タクシー利用)
TEL.0276-52-2276 FAX.0276-52-5311
<http://www8.wind.ne.jp/mantokuji/>



休館日/毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)
観覧料/一般 200円(個人)・160円(団体20人以上)
中学生以下 無料



地域で異なった三くだり半



展示三くだり半の特徴— その地域性

三くだり半の地域性に着目したのが今回の展示です。上野国（群馬県）のもの、地域が特定できないが関西のものと推測できるもの、それぞれ数点のほか、現在の行政区でいえば、山形・栃木・茨城・長野・山梨・愛知・岡山県、京都府などのもの、合わせて20点余を展示しました。

なかでも栃木・群馬両県には狭い地域で用いられた地域の特徴があります。写真を掲げましたが、これには夫婦が仲よきことのたとえとされる「鴛鴦^{おしどり}」を用いています。栃木市内で見いだされたもので、「縁談」を決めたにもかかわらず、今更「破縁」に及んだとあり、婚約後破談になったものです。したがって、未婚男女関係解消文書の常套文句「執心」ごぞなきことがしたためられています。

展示はしていませんが、表題「縁切状」が栃木県芳賀郡内で4通見出されています。離縁状を「縁切状」と呼んだということは、言葉遣いがきつい地域だったのかもしれない。表右の離縁状は、かつて群馬県に存在した縁切寺満徳寺離縁状の前半部分「深厚之宿縁浅薄之事不有私」を模倣したものです。縁がなければ結婚しませんが、縁あって結婚したものの、その縁が薄くて離縁になった。つまり、縁が薄かったので離縁というわけです。離縁状に相応しいとして周辺60キロメートルの範囲に流布しています（パネル流布図参照）。その再婚許可文言にみられる「二念」と「明日」の用語は足利周辺と上野国邑楽・新田両郡で用いられたもので、ほかの事例では「明日をまたず」・「明日より」などと書かれています。「二念」ないとは、二心がないこと、ここでは再婚に異議がないことを強調したものです。

また、群馬県勢多郡・新田郡内には「会者常離」の離縁状が散見されます。「定離」の誤字ですが、言い得て妙です。また再婚許可文言はだれと再婚してもかまわないと書きますが、それなら隣家でもよいことになります。緑埜郡（藤岡市）では「此末隣家へ嫁入候共」としたためたものがみられ、これも狭領域の地域性です。

講演会「地域で異なった三くだり半」

日時 ■ 平成30年9月30日(日) 午後2時～
会場 ■ 縁切寺満徳寺資料館 復元本堂
講師 ■ 高木 侃 名誉館長
定員 ■ 先着70名

展示説明会

日時 ■ 平成30年10月6日(土) 午後2時～
会場 ■ 縁切寺満徳寺資料館 展示室
講師 ■ 高木 侃 名誉館長
定員 ■ 先着20名

講演会・展示説明会

参加費無料

講演会・展示説明会申込み先

縁切寺満徳寺資料館
TEL.0276-52-2276
9月1日(土) 9:30から電話で受付

太田市立

縁切寺満徳寺資料館

〒370-0425 群馬県太田市徳川町385-1
(東武伊勢崎線木崎駅・JR高崎線深谷駅下車タクシー利用)
TEL.0276-52-2276 FAX.0276-52-5311
<http://www8.wind.ne.jp/mantokuji/>